

令和7年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立高等学校 定時制)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	未来を創る しなやかでたくましい人材の育成
目指す学校像	新しい時代の教育を創造し、しなやかでたくましい人材を育てる川口市のリーディング校

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者(教職員を除く)	3名
事務局(教職員)	5名

学校自己評価					
領域	年度目標			年度評価(令和7年12月23日 現在)	
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
組織運営	○募集停止後の教員数減少に伴う教職員の校務負担増が想定される。また、教育の質の低下が懸念される。	「教員数の減少を見据えた効率的な学校運営の組織及び方法を検討し推進する。」 ①定時制の今後について定時制全教職員で検討し、解決を図る。 ②効率的かつ効果的な組織運営を行うとともに働き方改革を継続し、教育の質を向上させる。	①定時制の今後について、課題を整理し、市教委と連携し解決する。 ②行事等を精選しつつ、新たな取り組みを実施しながら教育の質を向上させる。	①③市教委、全日制・附属中とともに今後の校務運営の課題を整理し、課題解決に向けた検討を継続している。 ①③外部機関と連携し「多文化共生」に係る教員研修を実施した。 ②生徒募集停止後の教員数減少を見据え、カリキュラムを検討した。	A
教育課程	○募集停止後の生徒数減少に伴い、教育の質の低下が懸念される。 ○生徒の目標が「高校卒業」だけでなく「将来を見据えた進路実現」に大きく変わってきている。学校の現状を踏まえたカリキュラムが必要である。	「教育課程の円滑な実施を進める」 ③教育内容の保障について、市教委に働きかけ、教育活動の維持、充実に努めていく。 ④生徒が主役となる教育を推進し、何事にもあきらめずチャレンジし続ける生徒を育てる。	③生徒数減少により生徒が不利益を被らないよう関係各所に働きかけ、教育活動の維持、充実に努める。 ④4年間を見通した系統的なキャリア教育を実施し、生徒の自己理解の深化、進路意識の醸成を図る。 ④ICT等を活用した学びや体験活動、学び直し、日本語指導など、生徒一人一人に沿った指導の充実策を実施する。	④進路希望の未決定者数は「0」である。 ④「進路の手引き」を活用したキャリア教育(外部講師講演等)を着実に実施した。生徒満足度は85%(昨年度84%)である。 ④「産業社会と人間」における生徒満足度78%(昨年度78%)、「総合的な探究の時間」における生徒満足度52%(昨年度40%)である。 ④授業における生徒満足度は78%(昨年度84%)である。 ④校外行事を例年以上に実施した。情操教育だけでなく公共マナー意識を啓発することができた。生徒満足度は73%(昨年度73%)である。	A
開かれた学校づくり	○夜間定時制のため外部連携が難しい面がある。 ○定時制生徒の半数以上が長期欠席経験者や日本語を母語としない生徒である。 ○定時制の魅力ある学びの発信をより一層充実させることが求められている。	「積極的に広報するとともに外部組織や地域とWin-Winな関係づくりを構築する」 ⑤外部組織との連携を一層強化し、生徒の将来を見据えた様々な学びを推し進める。 ⑥様々な媒体、機会を活用し定時制の魅力発信する。	⑤全日制や附属中、外部組織や地域との連携を積極的に行う。 ⑤近隣他校と情報共有しながら、多文化共生や日本語指導等を推し進める。 ⑥HPやSNSを活用し定時制の魅力発信していく。	⑤同窓会(生徒会行事)、全日制(文化祭)、他校(インドネシアの高校、所沢高校(定)、陽春分校)など連携事業を実施した。 ⑥学校HP更新回数57回(昨年同時期51回)、SNS活用した情報発信をした。	A
教職員の資質向上	○組織的かつ計画的な研修体系を構築する必要がある。 ○定時制教員数が少ないことから、研修参加が難しい面がある。 ○ICT活用の流れを後戻りさせないという意識の下、教育活動を充実させる必要がある。	「教職員の資質向上を推進させる」 ⑦校内研修を計画的に行い、教職員の指導力向上を図る。 ⑧校外研修への教職員の積極的な参加を推奨する。	⑦保護者も含めた公開授業、研究授業を実施する。 ⑦ICT等を効果的に活用できる研修を実施する。 ⑧校外研修へ積極的な参加を推奨する。	⑦⑧公開授業見学者数13人、保護者から直接意見を伺うことができた。 ⑦⑧成績優秀者は1学期62名、2学期名(昨年度1学期61名、2学期56名)であった。教科指導研究など職員の地道な研鑽による学びなおしの成果があがってきている。 ⑦⑧様々な行事実施により若手教員の資質向上ができた。	B
施設・設備等の管理	○全日制、附属中との情報共有し、緊密な連携体制を構築し、安心安全な学校生活を保障する必要がある。	「施設設備の効果的な活用と安心安全な学校生活の保障する」 ⑨定時制特有の課題に対して安心・安全を確保する。 ⑩施設・設備を活かした教育活動を展開する。	⑨⑩自転車点検や登校指導、不審者等の防犯対策など安全確保と安全点検を行う。 ⑨⑩生徒が様々な犯罪に巻き込まれないよう様々な機会を活用し、生徒の意識の高揚を図る。	⑨防災訓練を年2回実施した。 ⑨防災マニュアルの見直しを行い、追加修正した。 ⑨校内の防犯対策の見直し、年3回の自転車点検、登校指導を実施するなど安全指導を行った。 ⑩ICTを活用した授業における生徒満足度76%(昨年度85%)である。	B

学校関係者評価	
※実施日	令和8年1月21日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
①② 教員数の減少による影響の課題があるので、市教委と緊密に連携し、効果的な学校運営を推進しつつ、教育の質の維持・向上に努めることを期待します。支援が必要な生徒、繊細な特性を持っている生徒が増加傾向にありますが、職員間で情報を共有し、連携を強化することで、個々の生徒の進路実現に向けた支援体制の構築をお願いします。近隣中学校、他の高校との情報共有を積極的に行い、共通課題の解決に向けた連携体制を構築することが良いと思います。	
③④ 生徒アンケートにおいて、学校生活の充実度や友人関係の良好さ、授業の分かりやすさは非常に高い水準であることがわかりました。この高い満足度を維持し、教育活動の維持・充実に引き続き努めてください。カリキュラムマネジメントを行い、生徒にとって魅力的でワクワク感のある教育を実践することを期待します。教員の相談対応において、生徒と教員との間に高い信頼関係が構築されており、生徒が学校生活を送るうえで精神的なサポートが十分に提供されていて良いと思います。	
⑤⑥ 生徒が高い満足度で学校行事に参加している現状を踏まえ、今後は教員が支援に回り、生徒が主体的に活動できる場を増やすことで、生徒の居場所づくりやコミュニケーションの活性化させることを期待します。	
⑦⑧⑩ 保護者を交えた公開授業や三者面談など保護者と連携した指導体制は高く評価できている。今後も継続的に教員のICTスキルを向上させる研修を実施する。	
⑨ 防災訓練、自転車通学の指導など十分に行っており、生徒の安全を第一に考えた指導が十分行われている。今後は特に自転車通学の指導を今まで以上に指導をお願いしたい。	